

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-121	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
General practitioners recognizing alcohol dependence: a large cross-sectional study in 6 European countries. アルコール依存を認識している一般開業医：ヨーロッパ6か国における大規模横断研究		
<b>執筆者</b>		
Rehm J, Allamani A, Vedova R, Elekes Z, Jakubczyk A, Landsmane I, Manthey J, Moreno-España J, Pieper L, Probst C, Snikere S, Struzzo P, Voller F, Wittchen HU, Gual A, Wojnar M.		
<b>掲載誌</b> Ann Fam Med. 2015 Jan-Feb;13(1):28-32.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール依存、一般開業医、ヨーロッパ、大規模横断研究		25583889
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> ヨーロッパにおいて、アルコール依存は死亡やさまざまな疾患の重要な原因のひとつであるが、多くのアルコール依存者が治療を受けていない。プライマリ・ケアの現場でスクリーニング、治療および専門医への紹介を行うことにより、アルコール関連疾患のさらなる予防が可能となる。本研究では、ヨーロッパの一般開業医においてアルコール依存症がどの程度診断されているかを検討した。		
<b>方法：</b> ヨーロッパ6か国において、一般開業医 13,003名の診断と患者 9,098名(そのうち 8,476名において一般開業医の診断あり)との面談結果を比較検討した。まず、一般開業医が、アルコール依存、合併症、健康関連サービス利用の有無を評価した。それとは別に、Composite International Diagnostic Interview (CIDI) などを用いた構造化面談を行い、アルコール依存、合併症、健康関連サービス利用の有無を評価した。一般開業医による診断および構造化面談による診断に影響する要因を重回帰分析で検討した。		
<b>結果：</b> CIDIによりアルコール依存と診断される頻度(5.5%)は、開業医により診断される頻度(5.1%)とほぼ同等であった。しかし、両者の診断が一致したのは、わずか154名だけであった。開業医は、高齢者、内科合併症(肝障害や高血圧)を有する者および社会的地位の低い者をアルコール依存と診断する傾向にあった。飲酒量の多い者と精神科合併症を有する者は、開業医においても、CIDIにおいてもアルコール依存と診断された。		
<b>結論：</b> 一般開業医においてアルコール依存症を診断することは可能と考えられる。CIDIでは高齢の重篤な合併症を有するアルコール依存者を見逃す可能性があるため、CIDIのアルコール依存診断における役割は再検討されるべきかもしれない。		